

アイデア溢れる仮装企画

第49回
高月祭開催

号外

磐高新聞

令和3年
7月19日発行
磐高出版委員会



校門の様子

7月18日、第49回高月祭が行われた。今回は、新型コロナウイルスの感染対策をしつつの開催となり、校内のみの公開となった。しかし、どの企画も大いに盛り上がりを見せた。

7月17日に行われた前夜祭では、各クラスによる仮装企画が行われた。それぞれのクラスが、劇やダンスなどの個性あふれる発表を行い、構成やBGM、衣装など、テーマに合った様々な工夫が凝らされた。また、マスクやフェイスシールドを着用しているクラスもあり、コロナ対策も念入りに行われていた。1学年優勝クラス、1年7組の『菅野恋愛相談所』では、ディズニークラスターと菅野先生がかわいらしい劇とダンスを披露した。2学年優勝クラス、2年3組の『TOY STORY』では、TOY STORYのキャラクターたちが、TOY STORYの衣装を着た。3学年優勝クラス、3年1組の『光源氏、わが闘争』では、光源氏を取り巻く個性豊かなキャラクターたちが愛憎劇をコミカルに演じ、3年3組の『夢の世界へ、さあ行くぞ！』では、任天堂のゲームに登場するキャラクターたちが、大きな模造紙を活用し、

ユニークで迫力のある劇を披露した。どのクラスの仮装企画も、観客の心を掴む面白いものばかりだった。続いて、優勝したクラスの代表者にインタビューをした。ここではハイレベルな仮装の数々を繰り広げた3年生のクラスの中で、栄えある優勝手に入れた1組の志賀香成さんに一言もらった。「誠に遺憾ですが、何かに目覚めそうにないです。」とコメントしていた。また、3組の上田賢さんは「女子が中心となって色々と手配し、暑い中皆で頑張った事が報われて良かったです。」と話していた。

▼2-3の仮装企画



	1年	2年	3年
1位	7組	3組	1組 3組
2位	3組	5組	
3位	5組 6組	2組 4組	7組



▲右から3年1組・3年3組の代表者

磐高生あるあるとセンス溢れる優秀作品



写真で一言

IWAPPON GRAND PRIX

「あれが...チャ...チャオチュール?!」
(つちち) 3票



手短に怖いことを
言ってください

IWAPPON GRAND PRIX

「※事実 明後日から毎日課外」
(タコさんウィンナーさん) 6票

「4プロ写している最中に後ろに先生」
(偏差値28) 4票

『最高』を超え続けるために託す想い

Q 高月祭を終えた今の心境
生徒会長(以下生) ... ほっとしたという気持ちが一番大きい。コロナウイルスが流行しており、様々な制限がされている中で、無事に開催できて良かった。

実行委員長(以下実) ... 昨年は文化祭が不完全な形になってしまった。これからの高月祭に近い形で行うことができ、やり切ったという気持ちでいっぱいだ。

Q コロナ禍で苦労した点と工夫したこと
生 ... 換気と消毒の徹底を巡回して呼びかけた。感染の対策を行う姿が見られ、効果があつたと思う。

実 ... 企画の盛り上がりを感じない程度に感染対策を呼びかけた。司会を通して適度に声をかけて工夫した。次回以降の開催に向けて後輩たちへ

生 ... 私たち3年生は、一度も公開文化祭を経験できなかった。1、2年生には、公開文化祭を経験してもらい、今回以上に充実した文化祭にしてもらいたい。

実 ... このような厳しい社会情勢の中で、工夫を凝らして文化祭を作り上げるのができた。今回の高月祭を一例として、これからの参考にしてほしい。



▲生徒会長と実行委員長

青春の味求めて

北体育館側では、運動部による模擬店が催された。梅雨明けといふこともあり、炎天下での活動だったため、生徒たちはアイスやかき氷などを買い、涼んでいた。ガスを飲む食品を販売した部員は汗をかきながらも、一生懸命に活動している様子が見られた。熱中症にならないよう、水分補給をしながらも青春の汗を流して協力して頑張っていた。また、新型コロナウイルス対策として、食べ歩きが禁止されていたため、模擬店

北体育館が食事を提供した。隣の設置されたテントや北体育館が食事スペースとなり、多くの人が休憩していた。現在の磐高生は模擬店の経験がなかったが、特に大きなトラブルもなく、無事に終わることが出来た。お昼時には、沢山の人が模擬店を訪れ、賑わっていた。



▶賑わう模擬店の様子

磐高の有志集う

個性が光るクラス企画

南体育館での企画は、チアリーディング部のパフォーマンスからスタートを切った。彼女たちのパフォーマンスは、僅かな時間ながらも体育館にいた人に元気を届けた。続いて、応援団、チアリーディング部、野球部による共同発表が始まった。磐城高校応援団長の一声から、応援歌や校歌の披露と終始豪華な発表だった。今回の発表で3年生は引退となる。そのため、野球部1、2年生による3年生への感謝の言葉が述べられ、発表後には盛大な拍手が送られた。書道部の躍動感に溢れるパフォーマンスは、音楽に合わせた大きな作品を作り上げて観客を魅了した。



▲ダンス発表



▲応援団の演舞

その後、「Champion」の「DISTURBANCE」の3組のバンド演奏があり、テンションが上がるドラムや歌声に体育館の熱量も最高潮を迎えた。特にラストを飾った「White Rabbit」はフィナーレに相応しいステージであった。磐高生の日々の努力の結晶のような素晴らしい発表だった。



▲左から1年生・3年生・2年生のクラス企画の様子

3年生フロアには、最高学年に相応しい工夫が凝らされた。大きな装飾が並んでいた。最後の文化祭であるからこそ、全員が全力で和気あいあいと活動しており、たくさんのお客さんへお礼の言葉を伝えることが伝わってきた。



▲上から1組・2組・6組の代表者

クラス企画が行われた校舎2棟は、常にたくさんのお客さんに包まれていた。その様子を、1年生から順に紹介していく。1年生フロアは個性溢れる企画が盛りだくさんで、今年が初めての文化祭とは思えないほどクオリティーが高かった。お化け屋敷は多くの人を集め、本祭の終盤まで行列と悲鳴が絶えなかった。また、デイズ二の世界観を細部まで丁寧に表現しているクラスや、様々なゲームを行っているクラスもあり、全体的に1年生の活発さが表れていた。2年生フロアでは、繊細で豪華な装飾が目立っていた。テレビ番組や映画をモチーフにした企画が多く展開されていた。誰もが一度は挑戦したいと思うような興味を引く企画ばかりであった。どのクラスも完成度が高く、それぞれが独特な空間を演出していた。来場者を喜ばせるために多くの努力をしたことが伝わってきた。

しみと感動を与えていた。他学年の手本となるような企画ばかりであり、来年以降の高月祭に大きく影響を及ぼすこととなっただろう。どの学年も限られた時間、制約のある環境の中で、最大限の工夫を凝らして企画を行い、最高の文化祭を築き上げていた。3年生は異例とも言える3クラス同率1位という結果となった。高校生活の中でも大きな思い出となる高月祭で、印象的な結果を残したクラスの代表者に一言コメントをもらった。3-1 クラスの皆さんのお陰でした。(吉田 快斗さん) 3-2 多くの人に来てもらって嬉しかったです。(常松 優乃さん) 3-6 最初は不安が多かったですが、無事に楽しんでもらえてよかったです。(鈴木 桜介さん)

下克上？“密”な関係見せつける

見事に気配を切り、決勝を制した優勝者にインタビューを行った。Q 部活の先輩に囲まれた中で優勝を決めたこと、今後の目標を聞かせてください。A 2・3年生とは仲が深まっていて、気が楽に取り組みしました。実力は関係ない企画なので、気ままに楽しめたらなと思います。Q 予選後から決勝戦までの間で何か特別なことをしましたか。A 予選の時と同じ気持ちで挑むために、前日と同じタオルを洗濯して使いました。そのために、ベストな状態で挑めました。Q 決勝後、先輩方から何か言われましたか。A 素直におめでとうと言ってくれました。更に仲が深まった感じがします。Q 次の機会があれば、参加したいですか。A 勿論出たいです。2連覇目指して頑張りたいです。(猪狩英慈さん)

気配切り	
1位	猪狩英慈
2位	小野康介
3位	小松宥規
4位	渡邊佑全

	1年	2年	3年
1位	7組	5組	1組 2組 6組
2位	4組 6組	4組	
3位		3組	

▲クラス企画ランキング

部・委員会企画	
1位	英語部
2位	自然科学部 生物班
3位	演劇部

▲部・委員会企画ランキング

磐高に響いた青春の音色

生徒会企画「歌うま王」に多くの有志が参加し、その中で志賀一華・迫田美桜ペアが優勝した。優勝者の二人に話を聞いた。Q 優勝した感想をお願いします。A 迫田…嬉しい一言に限りませんが、私は暇だったので付き合ってくれた一華に感謝です。志賀…まとまった時間がとれないのですが、おそろしく今までの人生の中で一番青春を感じました。それくらい思い出に残り、一生忘れないであろう体験でした。感謝しかありません。Q なぜ「残酷な天使のテーゼ」を選んだのか、理由を教えてください。A 志賀…みんな盛りに上がる、文化祭のボルテージを上げられる曲を選びました。この曲にしました。Q 今までどのような練習を行いましたか。A 志賀…空き教室を借りたり、カラオケに行ったりしました。また、ハモリの音源を聞いて、頑張っていました。迫田…ハモリは一番技術が見えるところなので、集中的に練習しました。

歌うま	
1位	志賀一華 迫田美桜
2位	岩崎凌磨 村山由莉
3位	水澤蒼空 空岡夢月

制約の中でも最高傑作を

様々な文化部や愛好会、委員会が校舎や百年記念館で企画を行った。日頃の研究の成果を発表している団体もあれば、高月祭オリジナルの企画を用意している団体もあり、全ての団体が多くの来場者を楽しませていた。今年も3年ぶりとなる正式な高月祭ということもあって、各団体の企画のクオリティーは目を見張るものがあった。しかし、例年とは違い、企画運営には大きく制限がかかった。企画者たちは暑い中、スクをかけ、換気を行い、来場した生徒とソーシャルディスタンスを確保しながら、発表をする英語部



▲発表をする英語部